

# 図書波だより

題字 田部島根県知事

号数 第8号  
発行日 昭和45年5月15日  
編集 桥野健治  
発行 島根県立図書館  
松江市内中原町52  
TEL (0852) 21-2101  
印刷 渡部印刷株式会社



## 読書の楽しみ

浜田市立原井小学校 3年 寺井一美

わたしは、本を読むことが大好きです。世界のいろいろなことや、大昔のこととも、よくわかります。

どうわの本を読むときは、自分が、しゅじんこうの気もちになります。つぎは、どうなるのだろうかとか、こうしてあげればいいのにとか、思って読みます。そんなときには、おわりまで、一ぺんに読んでしまいます。

わたしは、いろいろな本の中でも、でんきが、大好きです。いろいろなはつめいをした人や、人のためにつくした人たちの、小さいときのお話が、とってもおもしろいです。わたしに、にているところなんかあったときは、とってもうれしくなります。本を読みながら、ときどきでてくる絵を見るのは、とっても、たのしいです。

この前読んだ「チュウのいる丘」という本の中に、はっけつびょうの話がありました。はっけつびょうは、げんばくびょうともいわれて、たくさんのお医しゃさんが、けんきゅうしているのだけど、まだ、はっきりしたことは、わかっていないそうです。またどうすれば、なおるかということともわかっていないと書いてありました。一ぱつのげんばくでたくさん的人が、一ぺんにしんだそうです。やけどをした人や、びょうきになった人も、たくさんいるそうです。

本は、わたしの知らないことも、たくさんおしえてくれます。だから、本を読むことが大きです。

# マスコミの中の読書指導

島根大学教授 金 築 修



いまの子どもたちの生活のなかで、マスコミの占める比率は大きいものがある。全国図書館協議会の児童生徒の読書実態調査の結果をみても、子どもの生活時間は、ラジオ・テレビと学習が大部分で、読書の時間は4人中3人は1日30分以内となっていて、ラジオ・テレビの4分の1にすぎない。読書に対する魅力においても、遊び、外出、テレビ、映画よりも、雑誌、マンガを含めた読書の方が低いという。子どもはどのくらい本を読んでいるか。

子どもの半数は1ヶ月1冊から3冊の本（勉強の本、雑誌、マンガを除く）を読んでいる。1人1ヶ月平均読書量は、小学生4.1冊、中学生2.6冊となっている。ところがマンガのほうは小学生の場合1人1ヶ月平均5冊から7冊も読んでいる。他方1ヶ月間1冊も読まない子どもが小学生で10%、中学生で27%もいる。その理由としては、「勉強でひまがない」「本を読むのがきらい」というのが多く、男子では「遊び」、女子では「テレビ」「手伝い」などの理由が主である。従来から読書をしない理由としてよくあげられたのも、「きらい」「勉強」「テレビ」の3つであった。

テレビのために読書をしないとか、読書がきらいになるということは、一面でテレビ視聴からいろいろ学ぶものがあるにしても、やはり大きな問題である。

読書の量的側面だけでなく、読書の内容とか読みかたにおいても問題がある。児童生徒向きの小説や、ノンフィクションの本などはむかしより多く出版されていて、読書好きの子どもにとって状況はよくなっているはずである。そして読書する子どもの傾向は、小学生は伝記、世界名作、中学生は日本文学、高校生になると世界文学と、毎年あまり変わらない。しかし一般の多くの子どもはその時どきのテレビの人気番組と関係のある小説や文学作品に走ったり、営業本位の売れる雑誌の低俗なストーリーを読み漁るという傾向にあり、その読み方も、筋だけを求め、事件の面白さだけを追って、人物の行動の動機や心情を理解したり、それを批判するという

ような読み方はしていない。テレビマンガを楽しむのと同じようなしかたである。

こうしたマスコミによる読書習慣、読書傾向の変容の問題は、一方では本を作る側の問題とも関係があり、単純にどうすればよいかという処方箋は書けないが、しかし、少なくともそれぞれの家庭で子どもの読書にもっと関心を持ち、本の選び方、読み方についても指導していく必要がある。この面で子どもの知性、心情を育てることは、学校だけの問題ではなく、むしろ基本的な生活の場における知的環境としての読書という点からは、家庭の方がいっそう重要な意義をもっているといってよい。

では家庭の読書指導はどうすればよいか。まず、テレビでも雑誌でも、見たいもの、読みたいものを選択して、それらをもとに一日の生活時間の割振りをめることである。勉強と余暇を区切り、余暇の中でのテレビや読書を区別する。こういう生活時間割を子どもの納得を得ながら習慣づけていくことが指導の一つの側面である。

しかし時間を規制するだけではうまくいかない。一方で子どもの気持ちが読書に向くように仕向ける必要がある。つまり家庭の読書環境づくりである。その一つはよい本を用意してやることである。しかし、それより重要なのは、まず親が気持ちの上で読書にのり出していくことである。幼児や低学年の子どもなら、よい物語りを読み聞かせたり、お話をやってやりして、そこからいっしょに読むという形で入っていくのがよい。学年がすすむにつれて、親も同じ本を読んで、お互いに感想を話し合うとか、感想文を書かせてみるというような方向へ導いていく。そこに本の内容に対する識別や批判の目が生まれてくるのである。こういうことを根気よく続けていくことで、子どもがより知的に洗練されたものを求める傾向が出てくるのである。

けっして強制するのではなく、手をひいてやりながら、いつか子どもが自分で歩けるようになるのを見守ってやるという態度が基調になるべきであろう。子どもとともに楽しむ雰囲気が加わればもうしめたものである。

# 第12回 こども読書週間 5月1日～5月14日！

## 小中学生室の利用状況

小中学生室の入口に立って中を見渡してみて下さい。白い机に白い書架、カーペットにソファーを背景に、小さな椅子に腰かけて本を読んでいる子どもたちを見ると、なんとなく微笑ましくなってきます。平日は学校の終わるる時過ぎから急にザワザワと騒がしくなってきます。

約5,000冊の本の中から自分の読みたい本を自由に手に取って貸し出し手続きして帰っていくのを見ていると、本の選定の重要性を感じてしまいます。



子どもは本を読みながらさまざまなことを空想し、新鮮な感覚を持っているのでおとなの側から読ませたい本をおしつけるのではなく、子ども独自の判断で本の良否をみわける力がつくようになるのが大切だと思います。とかく安易な本にとびつきやすいものですが、そのうちに科学・工学の本も借りていくようになり、ひょっとしたら、この沢山の子どもたちの中から、未来の科学者、芸術家が生まれるかもしれません。

(奉仕課 久保田順子)

(声)

## へき地子ども文庫を利用して

那賀郡彌栄村立安城小学校図書係から県立図書館へめずらしい図書をありがとうございました。ここに気づきましたことを、少しあげてみます。

・低学年向きの科学読み物があり、平素は童話を好む児童も進んで読んでおり、うれしく思いました。

・貸出期間が2ヶ月あり、余裕をもって読むことができました。

・文庫は30冊でしたが、学年に幅があり、児童1人当たりにすれば読める本は少ないようです。今後たびたび見せていただければ喜びます。

### この文庫の利用にあたっては

・30冊の本をその内容程度によって各学級に分けて貸し出し、学級では借りる日数を決め、全員が全部の本が読めるように工夫したり、教師が最初の部分を少し読み聞かせて動機づけをしたりして児童に貸し出した。

## 利用後の感想

・学校や学級に図書が少ないので、各学級の児童とも、とても喜んで読書した様子。

中学年では、「ペーブルース」「ほしからきたうま」「はしれロボット」「自然のちえ」などが喜んで読まれた。

高学年では、電気関係の本や伝記はよく読んだが、歴史はむずかしいという声が強かった。

全体としては、読みかけもあったり、まだ読みたい本がたくさんあるので、もう少し期間を長くして貸していただきたいという声が大変強かった。また高学年向きの本が少し少なかったので、高学年向きの伝記や物語りなど多くし、全体の貸出冊数を増してほしいと思います。

## 私たちの読書グループ

### 岡児童図書館の状況

去る39年7月の集中豪雨により町の大半が泥海と化した。町始まっての大災害を受けた。その復旧工事が始まるとな中、老人と子どもを家に残して出かけた。子どもはおやつ代をもらって留守居をさせられ、夕方親たちが帰宅するころには遊びつかれて寝ているといった毎日が続いた。学校での作文にも「お母さん家にいて下さい。」といったような子どもの訴えとともにカギっ子問題は日増しにふえるばかりであった。そうした中でせめて自分の部落の子どもだけでも明るくのびのびと育てたいという親子会での話し合いにより会場を子どもに開放して、各戸よりわずかな雑誌や子ども向きの図書を持ち寄って学校から帰りがけに集まって読書をさせるようにした。

ところが子どもも大変喜び、遊技をしたり、読書をしたりしてなんとなく明るく感じられるようになった。しかし、如何にせん書籍の数が少ないため困っていた。

ちょうどそのころ県立図書館の自動車文庫が巡回してくるようになり、図書を借りうけて読むようになった。子どもたちも今までとちがって、いつも変わったいろいろな本を読むことができるようになりました。たまたま町より仮設住宅の不用となったのを払下げてやることで、それを会場の隣に建築した。2間半に3間の小さな建物だが、子ども専用の建物であり、子ども等はだれにも気兼ねすることなく読書ができるようになりました。

今では県の自動車文庫が巡回してくるのを、みんなが楽しみにして待っている。

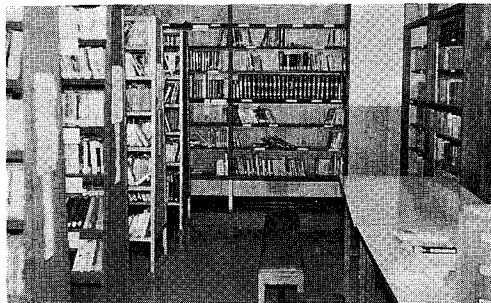
(大原郡加茂町 多田納丑一)

# 公共図書館の広場

## —広瀬町立布部図書館の巻—

### 沿革

終戦の人心定かでない昭和20年10月、読書グループ20人による読書会が生まれた。荒廃した社会に農村文化運動として読書の普及を図っていた。部屋は元郵便局舎の一室を借り受け、会員で書籍を持ち寄り、書架を作った。寄贈蔵書の蒐集等会員自ら資金を拠出し、東奔西走してこれを設立した。当時としては県下にまれにみる私立図書館として注目を浴びていた。その後、右余曲折を経て村立図書館として教育委員会に移管され、分館2カ所を設置して、特に貸し出しの増進と読書グループの育成につとめていた。



たまたま昭和42年3月、現在地に公民館が新築されたため、これに独立した図書館を併設した。同年8月広瀬町との合併により広瀬町立布部図書館として現在に至っている。ささやかな読書グループがおこした図書館運動が20有余年を経た現在、地域の公共図書館として実を結び教育や社会の振興に貢献していることは、おそらく他に例を見ないであろう。

### 概況と利用状況

広瀬町立布部図書館は、「我に七難八苦を与える」と三日月に祈った山中鹿之助幸盛ゆかりの地、富田城跡月山から東南へ12Kmのところにある。総合開発事業の一環として最近とみに観光地として脚光を浴びている県営布部ダムの清流に位置している。鉄骨モルタル塗2階建の町立布部公民館内に併設している。

職員は非常勤館長と公民館職員兼務の2人である。蔵書2,800冊、8ミリ映写機2台、16ミリ映写機1台、8ミリ撮影機1台、テープレコーダー1台等を有している。貸出登録者238人、貸出図書冊数760冊、分館1カ所、配本所6カ所を置いている。運営については学校・婦人・青年・団体の各代表者、学識経験者によって成り立ち、図書館運営審議委員7人を委嘱している。

図書館の管理・運営等必要な事項を調査審議する委員会を設け、また図書館業務に対する連絡、調査及び報告等の事務を処理するため各部落単位に図書委員26人を委

嘱している。

開館日及び時間は公民館と併設のため月曜日から金曜日までは、8時30分から17時まで、土曜日は午前中とし、日曜・国民の祝日は休館としている。児童・生徒・一般労働者の利用を考慮して今後土曜日の午後・日曜日等の開館も検討しなければならない。また、7月～8月の2カ月間の夏期期間は、17時から21時までの特別取扱いとし、パートタイマーによる勤務を本年から実施するよう計画している。

図書館活動については、特筆する事項はない。わずかに図書館だよりの発行、学校図書館との協議会、分館・配本所への巡回図書をしているにすぎない。しかし、図書館に来られない人のために各部落に委嘱している図書委員へ図書目録を配置して、家庭から図書委員を通じていながらにして希望する図書の選択ができるることは好評を得ているようである。昨年は日本文学有名作家の色紙展、日本著名作家原稿・原画展の2つの展示会を開催し、住民に芸術文化鑑賞の機会を提供した。恒例の秋の読書週間に読書普及を推進する行事の一環として、管内の小・中学校生徒を対象とした読書作文コンクールを計画した。70篇の応募があり、特選には楯、入賞者には賞を贈った。また、入選者の作品集を発行した。今後もこのコンクールが回を重ねることにより、読書思想の普及振興に役立ちたいと期待している。

視聴覚活動については、12回の地域集会及び講演及び講習会で県立図書館の映画フィルムの貸し出しを得て映画上映を行なうほか、レコードコンサート、写真展示会、8ミリ撮影機による地区内の景勝地や行事等の撮影をしている。

独立した図書館とはいえない、公民館に併設された図書館であるが故に職員も公民館職員の兼務を余儀なくされ図書館予算も必ずしも関係者の意にそ

うことができないのは遺憾にたえない。しかしながら人口流失が過疎に拍車をかける山間の一隅にあるこの図書館が、地域住民の文化センターとして読書を通じての教養づくり、人づくりに貢献すべく努力したい。



# ~~~~~新入生のみなさんへ~~~~~ おすすめしたい本！~~~~~

幼稚園・小学校・中学校に入学された新入生のみなさまも、ようやく学園生活に慣れられたころではないでしょうか。活字に慣れて、幅広い知識を身につけて欲しいと思います。

「かばくん」(幼稚園)

岸田衿子著 福音館書店

何の変化もない単純な話ですが、たんたんとした言葉の中にあたたかな心の触れあいが感じられます。淡彩の絵がのびのびとしていて、とくにカバの表情がおおらかで楽しい本です。

「いたずらきかんしゃちゅうちゅう」(幼稚園)

バージニア・リー・バートン著 福音館書店

子どもの心理をよく考えて書かれたストーリーと躍動的な絵が魅力的です。幼児の姿をそのまま『ちゅうちゅう』の上に投影したような本です。

「あふりかのたいこ」

(小・低学年)

瀬田貞二著  
福音館書店

動物に対する愛情、人の心の暖かさや、自然の美しさをさりげない話術の中にしみじみと感じさせる絵本です。

「いない、いない、ばあ」

(幼稚園)

松谷みよこ著 童心社

幼い子ならだれでも喜んでする「いない、いない、ばあ」をリズミカルなことばとユーモラスな絵でつづってあります。

「やまんばのにしき」

(小・低学年)

松谷みよこ著  
ポプラ社

人をとて食うおそろしいやまんばの話から秋田地方に伝わる、話のよくわかるやまんばをとり出して再話したものです。瀬川康男の「絵」は世界絵本作家展でグランプリを受賞したものです。

「ひとまねこざる」(小・低学年)

H・A・レイ著 岩波書店

もし動物園の動物が町へにげ出したら……という子どもがだれも考える空想と、小ザルに託した幼児のおとなとの世界への好奇心が重なりあって楽しい物語です。

「ちからたろう」(小・低学年)

今江祥智著 ポプラ社

日本の民話にしては、珍しく豪快な主人公が登場します。岩手山地の貧しい村に残っている民話ですが、貧しい農民の生活や夢をこめた本です。

「王さまはんざい」(小・低学年)

寺村輝夫著 理論社

現代っ子の姿を、王様の毎日の生活の中に象徴的に表現しています。王様の行動の中から自分の姿をみつけ喜ぶと思います。

「ちいさいおうち」(小・低学年)

バージニア・リー・バートン著 岩波書店

美しい自然に恵まれたいなあと、騒音の都会とが対照的に描かれ、田園が都市化されていく過程が小さい子どもにも十分理解できます。

「ないた赤おに」(小・低学年)

浜田広介著 集英社

自分本位の考えが強い子どもに、友情の大切さを教えています。外見だけで、心の中まで判断してはいけないということを、やさしい文章で示しています。

「星の牧場」(中・低学年)

庄野英二著

理論社

悲惨な戦争と一方は人間性を豊かに育てる音楽と自然を愛する人々の、自由な憧憬の生活との対比で展開している物語です。

「君たちの天分を生かそう」

(中・低学年)

松田道雄著

筑摩書房

第二の人生の出発といわれる中学生時代の人生読本です。中学生の詩・作文・世論調査等を引用し、むずかしい人生論をわかりやすく、興味深いものにしています。

「あしながおじさん」

(中・低学年)

アリス・ジーン・ウェブスター著 岩波書店

この物語りは、1912年に出版されています。孤児の物語りはとにかく暗くなりがちですが、主人公は明郎で逆境に負けず、自立心、独立心のつよい性格の娘として描かれています。とくに一人の手紙の形式をとりながら主人公が成長していくようすが語られているところに特色があります。

「マアおばさんはネコがすき」(中・低学年)

稻垣昌子著 理論社

知性からにじみでるユーモアが感じられ、作者の人間味のあふれた、児童文学におけるあたらしいホーム・ドラマという感じです。

「ベトナム日記」(中学生)

小林金三著 理論社

新聞記者である著者が、東南アジアを訪ねた時の見聞をもとに書いています。ベトナムの歴史、現地のようすや問題点を、日記、メモの形で伝え、少年少女向けのベトナム読本です。

# 寄贈図書

昭和45.3



図書名	住所	寄贈者
神奈川県史料 発明への挑戦	横浜市	神奈川県立図書館
近世地方経済史料	東京都	東海大学出版会
尼崎の戦後史	松江市	島根県立図書館 友の会
文教行政総覧 地方都市の交通流動に関する地理学的研究	尼崎市	尼崎市役所
村上家の研究	松江市	島根県立図書館 友の会
中村京太郎伝	"	島根大学
源氏物語の精神的研究	隱岐	海士町役場
郷土読本(巻3) 重要無形文化財を保持する人々	大阪市	毎日新聞大阪社会事業団
古文書から見た村上家の研究	松江市	大山堂書店
千葉県地名変遷総覧 松江藩における西洋医学発達史	"	"
憂國の光と影	宍道町	神門広光
鳥取県の平家部落	松江市	島根県庁秘書課
山光会画集	松江市	千葉県立中央図書館
発明は誰にもできる 放送学序説	東京都	米田正治
詩集 降魔	"	国民文化研究会
恒久平和確立の世紀	西宮市	門脇一教
速記の6ヶ月コース	岐阜市	東光会山陰支部
松江商工名鑑	松江市	特許庁
島根の民生	"	NHK総合文化研究所
山と水に生きる	岐阜市	西宮詩話会
日本の労使関係	東京都	千賀 博
神奈川県の文化財 忘れてならぬ歴史の一頁	神奈川県	宮脇紀子
川柳きやり五十年史 歐米名著邦訳集(明治)	京都市	教育庁総務課
医学よどこへ行く	大阪市	厚生省社会課
石井十次日誌	宮崎県	岐阜県立図書館
神ながらに生きる	東京都	日本労働協会
小原豊雲	松江市	神奈川県文化財保護課
歌人・今井規清	東京都	頬竹 根
島根病害虫研究会会報 家庭教育学級をすすめるために 体育協会報	松江市	川柳きやり吟社
防衛年鑑(1970年) 研究紀要	"	国民文化研究会
	東京都	人間医学社
	松江市	石井記念友愛社
	松江市	大孝弥栄会
	東京都	田部喬子
	松江市	月尾管子
	松江市	島根大学農学部
	"	教育庁社会教育課
	"	島根県体育協会
	東京都	防衛庁
	松江市	松江工業高等専門学校

— 2月17日から3月末日まで —

- 45年2月17日 大分県立大分図書館職員3名来館見学  
19日 保健婦専門学院生20名映写機操作技術講習会受講(2日間)  
21日 古文書を読む会(45名)  
25日 自動車文庫巡回(加賀・美保関コース)  
26日 自動車文庫巡回(伯太コース)  
27日 宮崎県立図書館協議会委員等3名来館視察、自動車文庫巡回(平田・日御碕コース)  
(2月中閲覧者総数15,390名)
- 3月2日 日本万博資料展(3月中展示)レコードコンサート運営協議会  
自動車文庫巡回(那賀コースA)  
4日 平田市国富家庭教育学級35名見学學習  
6日 自動車文庫巡回(八雲・湖南コース)  
7日 松江市立朝日幼稚園児80名見学  
9日 自動車文庫巡回(美鹿コース)  
12日 鹿児島県教委職員2名来館視察  
島根町立野波小学校6年生50名、松江市立持田小学校6年生41名来館見学  
13日 自動車文庫巡回(佐田・湖陵コース)  
14日 文化映画を見る会、ステレオコンサート  
17日 自動車文庫巡回(那賀コースB)  
18日 県立長野図書館職員3名来館視察  
20日 図書館協議会(第4回)  
兵庫県教委職員2名来館視察  
23日 自動車文庫巡回(邑智コースB)  
25日 国立国会図書館職員、文部省社会教育課竹内事務官来館視察  
26日 自動車文庫巡回(邑智コースA)  
27日 県監査委員会監査  
31日 山口県建築課長来館視察  
(3月中閲覧者総数14,290名)



# 告 知 板

## 中国地区図書整理技術(初級)講習会 県立図書館で開催

図書館利用者の多様化、高度化に伴い、図書整理技術はますます重要視され、また他面激増する資料を迅速に整理するため、その簡素化が望まれています。

この整理業務について、公共図書館、学校図書館等の比較的経験の浅い職員を対象として、基礎的技術の習得と図書館奉仕の向上に資するため、県立図書館では、日本図書館協会ならびに島根県公共図書館協議書と共に図書整理技術講習会を次のとおり開催します。

○期日 昭和45年6月3日(水) 4日(木)

○会場 島根県立図書館集会室

○講師 図書館短期大学教授

服部金太郎氏

○講義内容

整理技術テキスト(簡素化のてびき)日本図書館協会整理技術委員会編を中心とした講義(このテキストは当日1部450円であっせんします。)

○日程

9.00 9.30 10.00 12.00 13.00 16.00 17.00

第1日 (6月3日)	受付 開講式	講義	昼食	講義	
第2日 (6月4日)	講義	昼食	講義	閉講式	

○参加者

中国地区各県の公共図書館、学校図書館等の職員で実務経験3年末満のものを主体とする。

○参加の申し込み

昭和45年5月20日までに県立図書館奉仕課へ申し込み下さい。

定員(70名)がありますので、締切日前でも定員に達したときは締めります。

## 16ミリ映写機の登録検査及び 操作認定についてお知らせ

○16ミリ映写機の登録検査と操作認定事務は今まで県社会教育課が行なっていましたが、昭和45年4月17日から県立図書館視聴覚係で行なうことになりました。

○登録検査は5月中旬から6月上旬にかけて、安来、松江、平田、出雲、大田、川本、浜田、益田、西郷で実施する予定ですので、希望の方は前もって市町村教委または県立図書館に所定の様式の申請書を提出してください。

○映写機の「免許証」は今後「認定証」となり、県立図書館が発行します。操作講習会も県立図書館または県立図書館が承認した団体が主催して実施します。

○現在有効な県教委発行の免許証を所持している方は所定の様式の申請により、市町村教委または県立図書館に届け出で、新しい認定証と切換えてください。

○昭和35年以降県教委から免許証の交付を受け、その後更新せず無効になった方は講習を受けなくても簡単な試験を受けるだけで認定証を受けることができます。

○他の都道府県発行の有効な免許証を所持している方は、本県の認定証と切り換えることができます。

○詳細は市町村教委または県立図書館視聴覚係にお問い合わせください。

## 図書館ニュース

### 著者を囲む読書座談会開く!

県立図書館では、文化講演会や、文化映画を見る会等各種文化事業を開催していますが、本年度新しく郷土出身者の著者を招き、著者を中心に読者と出版された図書についての座談会を計画しました。

その第1回の座談会を去る4月28日郷土史研究家伊藤菊之輔先生をお迎えして、当館集会室において開催しました。



当日は伊藤先生の近著「出雲および隱岐の石造美術」について、調査課程の苦心談や、研究内容の興味あるお話を聞き、調査研究に傾けられた情熱の一端を伺うことができて参会者一同深い感銘にうたれ、有意義な一時を過ごしました。

# 新着資料の紹介

## 1. 館内用図書

### (総 記)

書 名	著 者
コミュニケーション	ジョンソン・エルマロ
人間・世界	福原麟太郎
自由奔放	吳 文炳
(哲 学)	
夫を成功させるビジネスマン女房学	千尾 将
禅における人間形成	宮坂哲文
幸福の探究	マ レ ン
(歴 史)	
古代東北の開拓	新野直吉
小 笠 原	犬飼基義
世界旅行のすすめ	松本 亨
(社会科学)	
未来の企業・未来の人材	阿部 実
現代政治と議会制民主主義	藤原 弘達
第三の大國日本	ギラン・ロペール
英才教育のすすめ	伏見猛弥
(自然科学)	
線形数学	植竹恒男
ドイツ科学の再興	デイイツッカ一
日本歯科医事衛生史第1巻	日本歯科医師会
(工 学)	
ラーメン実用解法	田口文雄
西洋料理秘訣集	小野正吉
自動車売買	甲斐道太郎
(産 業)	
これが万国博だ	サンケイ新聞社
オリエント急行	マイケル・バースレイ
園芸技術の近代化3	藤村次郎編
貿易要論	浜谷源蔵
(芸 術)	
サッカー入門	田中純二
原色世界の美術	小学校館
ジャズへの愛着	立花 実
(語 学)	
現代の式辞・スピーチ・司会	講談社編
時事英語の読み方 70年版	ダイヤモンド社
ドイツ語入門応用編	日本放送出版協会
(文 学)	
桜 守	水上 勉
森村桂沖縄へ行く	森村 桂

無 明

こわれものとしての人間

吾子の四季

ふなくい虫

(児 童)

立ってみなさい

ひめゆりの少女たち

こぐまのパブとズバ

ライルはにんきもの

(郷土資料)

長門木与丈

石見とたら

日原人物誌

ゼンリンの住宅地図 出雲市

真継伸彦

大江健三郎

松下竜一

大庭みな子

斎藤隆介

那須田 稔

ささきあづさ

バーナード・ウェーバー

(レファレンス)

日本都市年鑑

全国市長会

国土総合開発総覧

国土総合開発研究協会

人事興信録

人事興信所

商業経営大百科

沢田久男

## 2. 映画(16ミリ) フィルム

「知佐子の日記」白黒3巻、対象青年・成人  
子どもを健全に育てることは子を持つ親、万人の願い  
であり、社会の願いでもある。

この映画は、これから家庭を持つとする若い人、子どもをもとうとする主婦たちに、子どもの育成には幼児期のしつけがポイントになること、いかに健全な家庭環境が必要であるかを考えながら、家族計画にのっとった健全な家庭づくり、親と子の関係、出産・育児について考え方意欲をおこせる一助になる。

「伝統工芸」一わざと人一

カラー、2巻、対象高・青年・成人

。文部省特選。教育映画祭最高賞

伝統工芸は、本来生活の必需品として、すべて手によって作り出され、その土地の歴史や風土と深いつながりがある。人間国宝とも呼ばれる作者たちの立派さが感得される。

「ミケランジェロ」カラー、3巻、対象中・高・一般  
ミケランジェロの天才は、彼の存命中に認められたものであって、多くの場合のように死後認められたものではなかった。こういうことは彼のような偉大な天才のみにしか起こり得ないことである。それは、すべての美術が神が他でもない彼に与え給うた方法で、彼の内に完成されたからである。